

株式 日刊金属新聞社
会社

発行人 小林 恒甫

本社 大阪市城東区蒲生1-3-7
電話 (06) 6932-5443 代表

北陸支社 富山市曙町1-30-508号内
電話 (076) 444-6836

購読料 半年44,100円(前納) 3ヵ月22,050円

日刊メタルレポート

住友金属鉱山電気亜鉛
蒸溜亜鉛・原料指定問屋

亜鉛ドロス・滓買入

大阪亜鉛工業株式会社

取締役社長 林 昭宏

〒555-1 大阪市西淀川区佃四丁目一四番三号
06-6460-2246 代表
06-6460-2246 電話
〒111-1 東京都墨田区立花二丁目四番五号
03-361-8135 電話

新幹線を支える
イグチの銅合金インゴット

高品質を追求するイグチの銅合金地金は
鉄道架線金具に使用され、新幹線やJR
各線の安全運転のお役に立っています

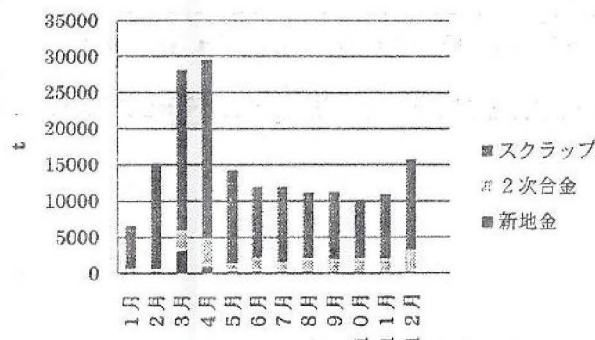
株式会社 イグチ

〒554-0052 大阪市此花区常吉2-3-53
06-6460-2246 代表
FAX 6460-2355

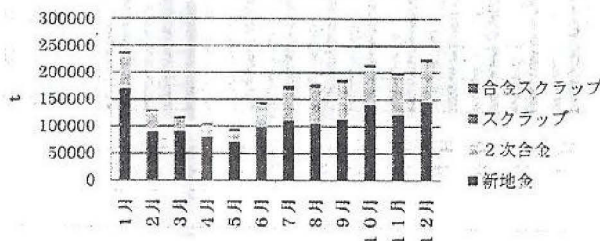
青銅・リン青銅
アルミ青銅
美術青銅
鉛青銅
など各種

N700系
のぞみ
(時速300km)

09年アルミ輸出推移



09年アルミ輸入推移



輸入はスクラップが八三%増加

橋本健一郎氏レポート②



橋本健一郎氏

〇〇ドル突破を受け、代替品需要が急増。代替品アルミスクラップの収集にメーカーはなりふり構わず、一〜二万円の大増高となった。

【概況】一月前半は好調な米国のISM指数や中国のPMI指数を好感、またロシア・中国の豪雪によるアルミ供給懸念から、LMEアルミ相場が一〇〇ドル程度上昇し、明るいスタートとなった。後半も好調な中国自動車生産、それに伴う上海シグマD12Sの二、三〇〇ドル突破や、ロシア塊の二、

「十二月のマクロ指標」

日本自動車工業会発表によると、自動車生産台数は前月比八%減の七八万八、〇六七台(前年の前月比一五%減)。また国土交通省発表の新設住宅着工戸数は、同一・六%増の六万九、一九八戸数であった(前年の前月比一四%減)。次に貿易関連指標は財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前月比七〇%増の一三二トン、二次合金が同五九%増の三、一三六トン、スクラップは同四〇%増の一萬二、五二二トン。

輸入は新地金が前月比一九%増の一四万四、九七二トン、二次合金が一%増の七万四、七一八トン、アルミスクラップは八三%増の六九四トン、二次合金原料としての需要が多い、合金スクラップは一・三%増の四、五三九トンであった。

(二面へ続く)

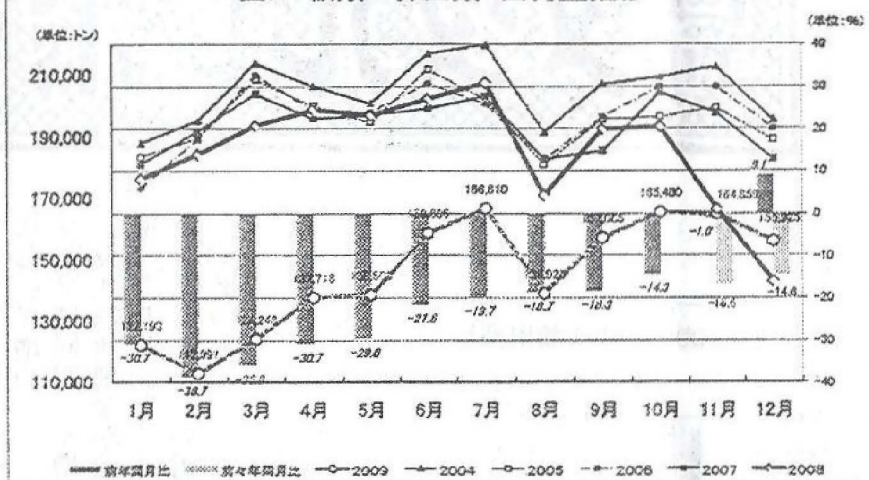
アルミ輸出 新地金が七〇%増加

L M E 非 鉄 在 庫 (2月3日入電分)

	入 庫	出 庫	2月2日 現在	増 減
銅	0	675	540,475	- 675
{ G A W	0	0	0 ±	0
	0	675	540,475	- 675
す ず	30	0	27,465	+ 30
鉛	325	75	157,975	+ 250
亜 鉛 S H G	0	100	498,900	- 100
ア ル ミ	100	6,700	4,601,625	- 6,600
〃 二 次 合 金	0	460	83,680	- 460
ニ ッ ケ ル	0	102	165,726	- 102
アルミ二次(NASAA)	0	40	177,960	- 40

(単位:トン)

図3 板類+押出類 出荷量推移



アルミスクラップ相場上伸も

今月後半は

ロシア塊など値下げ要素見当たらず

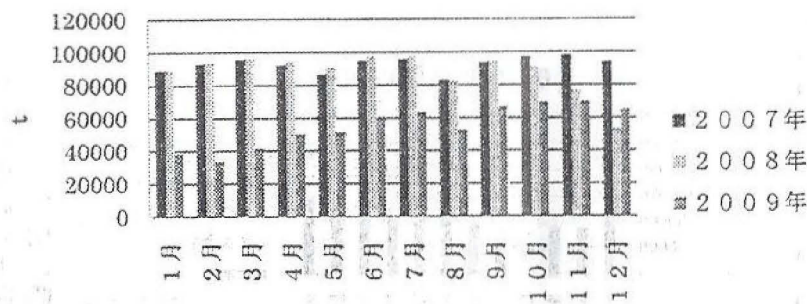
(二面より続く)

【十二月の国内指標】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前月比三・二%減の一六万〇、一九三トン(前年同月比一八%減)。

日本アルミニウム協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前月比七%減の六万五、三三三トンであった(前年の前月比三一%減)。

アルミ 2 次合金等生産実績



【見通し】

十二月は自動車生産・圧延品生産とも季節要因で前月比ではマイナスとなったが、前年の前月比からはるかに改善されており、回復期待はまだ強い。貿易は二次合金メーカーの値上げ不足から価格が高い中国へのアルミ輸出が四〇〜七〇%の大幅増となった。アルミスクラップ輸入に関しても、国内在庫の逼迫感から前月比で八三%増と大幅増となった。

LMEアルミ価格については金融緩和プログラムが予定どおり行われ、商品全般が二月一日現在大幅下落となったが、価格が需給に左右されるアルミスクラップに関しては二月一日現在、前月比横ばいと下げる要素が見当たらない。

また国内原料はほとんどなく、また上海シグマ、ロシア塊、等の輸入も値下げの要素が見当たらないことから、原料争奪戦は継続、二月後半はもう五円上げとの予測。